

善通寺こどもエコクラブ

名 称	団体名称：善通寺こどもエコクラブ													
活動内容	<p>【設置目的】 1997(平成9)年に地域を楽しむこどもの活動で、植物と人間生活のありかたを学ぶ。</p> <p>【活動内容】 弘田川の自然、こども樹木医教室、里山の昆虫、ESD 教室など自然活動を実施しています。</p>  													
活動場所	<ul style="list-style-type: none"> ・県下一円 ・善通寺市五岳の里 市民集いの丘公園 													
活動日時	4～9月、12～3月の主に土曜日（月に1回）													
入会情報	<p>会員募集中。また、会運営を応援して下さる方も募集しています。現在、会員数約30人。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入会条件 なし ・入会金 なし ・会費 なし ※必要な経費はその都度 													
お問い合わせ先	<p>善通寺こどもエコクラブ 代表者 井上 修 香川県善通寺市弘田町646番地3 善通寺こどもエコクラブ事務局 Tel&Fax：0877-62-9265 e-mail：osamu_kankyo@yahoo.co.jp</p>													
その他	<p>団体の活動のできること</p> <table border="1"> <tr> <td>楽しむ</td> <td>キャンプ、</td> </tr> <tr> <td>つくる</td> <td>どんぐりの苗木づくり</td> </tr> <tr> <td>食べる</td> <td>ブルーベリー、ジュンベリー、アケビ</td> </tr> <tr> <td>森林整備</td> <td>里山の道づくり</td> </tr> <tr> <td>学ぶ</td> <td>弘田川の水生昆虫の観察、こども樹木医教室、里山の昆虫観察、ダンゴムシ迷路、どんぐり教室、自然観察、土壌の性質調べ、こども葉っぱ判定士、鎮守の森調査、湧き水の旅、おとなエコクラブ講座、ESDの学び教室</td> </tr> <tr> <td>道具を使う</td> <td></td> </tr> </table>		楽しむ	キャンプ、	つくる	どんぐりの苗木づくり	食べる	ブルーベリー、ジュンベリー、アケビ	森林整備	里山の道づくり	学ぶ	弘田川の水生昆虫の観察、こども樹木医教室、里山の昆虫観察、ダンゴムシ迷路、どんぐり教室、自然観察、土壌の性質調べ、こども葉っぱ判定士、鎮守の森調査、湧き水の旅、おとなエコクラブ講座、ESDの学び教室	道具を使う	
楽しむ	キャンプ、													
つくる	どんぐりの苗木づくり													
食べる	ブルーベリー、ジュンベリー、アケビ													
森林整備	里山の道づくり													
学ぶ	弘田川の水生昆虫の観察、こども樹木医教室、里山の昆虫観察、ダンゴムシ迷路、どんぐり教室、自然観察、土壌の性質調べ、こども葉っぱ判定士、鎮守の森調査、湧き水の旅、おとなエコクラブ講座、ESDの学び教室													
道具を使う														

持続可能な開発のための教育 (ESD) を取り入れて、「学びの方法」「学び合い」「自ら学ぶ」ことを目標とした人材育成をしている。特に地域の指導者育成・学校と地域での課題意識をもった体験学習ができる機会を増やしてきた。地域の自然や生活環境の興味・関心を広げ、その自然や暮らしを守るためには、どのようなことが必要なのかを考える活動。地域の人たちとの交流やこどもの環境意識をもつための学習会を行う人材育成活動をしてきた。

【活動内容】弘田川・筆の山自然環境調査。こども樹木医認定講座。おとなの樹木教室 (みどりの学校)。地域自然調査。まちの環境ノートづくり。美しい街路樹剪定方法。温暖化防止活動。水辺の調査。家庭の省エネルギー実践講座。昆虫と自然。野鳥と森教室。環境マナー教室。ダンゴムシの迷路実験など。

ESD (持続可能な開発のための教育)

身近な樹木の生理・生態から地球のみどり機能のとしての価値を見いだすワークショップ。樹木から成る森林の働きによって、水の涵養・二酸化炭素の吸収・酸素の排出・防災効果・リラックス効果などがもたらされていることを学び、森林が人間の社会に不可欠な存在であることを理解した。さらに持続可能な社会のためにまちの中にどのような自然が必要なのかを想像し、人間と自然がどう共生するとよいかという視点から、まちづくりを考えるきっかけにした。

公園の樹木に触れて観察しながら樹木の誕生から死までの生活史を学び、子ども樹木医になって、樹木の病気と治療、健康に育つためにどのような環境が必要なのかを考えた。公園から街に出て、街路樹の役割と樹形を整える秘訣などを具体的に学んだ。さらに郊外へ出かけ、田園の湧水を涵養する森林の働きを実感し、これらの水が里海を育むことを理解した。このような樹木・森林が人間の暮らしに与える恩恵を踏まえて、公園に戻り、どのような公園であるかという想像し、人と自然が共生するまちのイメージを醸成した。

- ・樹木の命 (気持ち) という視点を加えることによって、樹木に親しみをもち、樹木を社会の構成員として捉えて共生する意識を養うことを目的に、毎回樹木に触れて観察する機会をつくった。
- ・水の涵養、里海とのつながり、街の景観、公園の構成など、社会で樹木が果たしている役割を実感するフィールドワークを盛り込んだ。

善通寺市の風土に精通している樹木医をリーダーとする善通寺こどもエコクラブの活動を、香川大学経済学部の教授と学生および地域のメンバーが加わって、ESDの要素を意識して再構成し、実施と検証を行った。公園で樹木の働きを学んだ後、実際に問題となっている総本山善通寺前の強い剪定を受けたイチヨウ並木を題材に、樹木の立場を考え、樹木医や地域の人話を聞くなどして、身近で起こっている問題を自分事として捉え、地域の将来について考えたことが大きな特徴である。四国遍路の札所が多数点在する善通寺の町並みを、参加児童が一市民として考え、樹木の働きを活かすまちをイメージできるように工夫をした。

子ども参加人数は、50名～30名/年。育成者 (サポーター) 10名～4名/年

環境保全・環境教育活動 (1993～)

全国の講演活動や環境教育、県内の水辺の調査とカウンセリングを行ってきた。「環境教育」「子ども遊び文化」「樹木ふれあい教育」「自然庭園と森林教育」「日本庭園から見る自然」「子どもと自然」「河川における市民活動」「こどもエコクラブ活動」「剪定からみる樹木」「樹木文化」「樹木病理」「水生生物調査」「土壌生物調査」などのテーマの活動を実施している。山形県から佐賀県まで38県の小中学校授業 (215校) 未来に向けて「ESD環境プログラム」持続可能な開発のための教育 (Education for Sustainable Development) にも取り組み、四国地区のESD教育活動の普及に努めた。善通寺五岳の里市民集いの丘公園において小中学校から大人までの環境・理科・社会・総合学習などの実践教育を手がける。

県内の小中学校出前授業においては、

1 「水生昆虫の生き方」 ～水生昆虫が教えてくれる河川のように～

水生昆虫の住み分けによって、水質の汚れが見えてくる。食物連鎖から川の物語を追いかける。水生昆虫を分類して「水の汚れ」ランクの簡易調査をする。身近な川には、不思議な水生昆虫の世界が果てなく広がっている。さらに水生昆虫は、その生態を通して水質や河川環境の健康状態を教えてくれる。

川を楽しみ、水生昆虫を知ることが、川や地球の自然を考えるきっかけとなる。

2 「ダンゴムシの迷路実験」～ダンゴムシ観察入門～

身近な土壌生物のダンゴムシをとおして地球環境を知ろう。ダンゴムシ観察と迷路実験で生きていくための知恵や習性を探る。地球の資源の循環の役割を果たす生き物。目立たないけれど、誰もが知っているダンゴムシの習性・行動の観察・実験からダンゴムシの生き方研究をする。

3 樹木医の「葉っぱの不思議な力」～地球の緑 観察入門～

地球は葉っぱで生きている。不思議な力を持つ葉っぱが、地球の環境を守っている。樹木の二酸化炭素吸収量を測り、人間にとって貴重な資源として認識する。循環型の地球のしくみを理解させる「ペットボトルのミニ地球」づくりを体験する。身近な存在である樹木から受ける恵み理解し、自然のあり方や人間の関わりを考え、自然の循環の輪の中で、自分ができることを見つけて取り組む姿勢を身につける。

ESD 分野

未来を支える人づくり ～学び合いと人づくり～

生物多様性 ～地域の生物を守るために～

公園でアートをつくるろう ～公園のピカソ～

樹木の生き方 ～身近な生活からの発見～

校庭のこども樹木医になろう ～とっておきの樹木の不思議発見～